

と太刀を振り上げて、一討と斬りかけました。こゝまで語り來りしとき、花太郎は王様に對ひ、
 『王様よ、これにて私の今日の役目だけは済みましたから、この話續きは、明日いたしますことにして、今日はこれで御免被ります。』といつてお話をやめました。(つづく)

指輪の遊び

其一

七八人で、輪を作つて、一筋の紐に指輪を通して其紐の兩端を結んで輪にして、各自夫を兩手で握つて、アチラコチへしごいて居る、指輪は、夫に従つて、又アチラコチラへ回り歩いて誰の手に居るか分らない様にする。そして、真中に一人居て此人の手に指輪が這入つて居ると思ふと、其人の

手を捕へる。あけて見えないといふと、又始める。お仕舞ひに捕はつた人が真中に出て、其番に當るといふお遊び。

其二

矢張り同じ程の人数で輪を作つて兩手を擴げて膝の上に置く。真中に一人指輪を持つて、周圍の人の兩手を指輪持つた手で軽く叩いて行くと、叩かれた人は、皆手の掌を握る。そして誰か其中の一人の手の掌に指輪を置いて行く。そうすると、指輪は、誰の手の掌に握られて居るか分らない。そこで、他の人が一人出て、『誰さん』といつて、指輪を握つた人を言ひ當てるのです。若し當て損ねたら、其人は罰として何か藝をやらされる。

潮干とさゞえ

今日は潮干だから、大勢人間の子どもがやつて来るに違ないと思つて、海の貝どもは皆恐がつて小さくなつて居ました。其中で一匹のさぐえが「なーに、大丈夫、己の貝殻は硬いから、そんな中に這入つて、こんな風の上から蓋をして居れば、とられたつて大丈夫」といつて威張つて居ました。そうして居ると、何だか、急に身體中が熱くなつて来て、とても、貝殻の中に居たゝまれなくなつたので、ひよいと、身體を出して見ると。何時の間にか、人間の子につかまつ

て、壺焼にせられて居ましたとさ。

た ん ぼ

野や山には、今たんぼ、が盛りです。皆さんは、たんぼの花が、晝は開いて居て夜になると、萎むのを知つて居ますか。これは、植物の運動です。もとは、運動といふことは、動物に限るものとして居たのですか、近頃になつて、植物にも、運動するものが澤山あることを見出しました。たんぼ、だの豆の種類の花の様に、晝開いて、夜閉ぢるのは、睡眠運動といひます。又ねむのきなどは葉が睡眠運動をします。この他に、他の物が行つて觸ると、すぐ下向く葉の植物などがあります。又日回りの様に日の方に向つて運動する植物もあります。